

# 要 請 書

平成25年6月

福 井 県

高速増殖原型炉もんじゅは、資源の乏しい我が国において、ウラン資源の有効利用によるエネルギーの安定確保、また地球温暖化防止を図るための重要な研究施設として位置付けられ、将来の放射性廃棄物の低減・低毒化を図るための国際的な研究開発プロジェクトとしても期待されている。このことは今回の日仏首脳会議において核燃料サイクルや次世代原子炉の研究開発を連携して進めることが確約され、その必要性がより明らかになったものとする。

今年1月、安倍総理は本県の要請に対し、核燃料サイクルの分野において日本は世界最先端の技術を有しており、日本がリードしていく気概を持って取り組むとされ、下村文部科学大臣も、「もんじゅ」の安全性の確保に万全を期し、エネルギー政策や原子力政策の検討の中で「もんじゅ」の位置付けを明確にし着実に研究開発を行うことを明らかにされた。

しかしながら、今回、原子力機構においては、「もんじゅ」の保守管理に当たって点検漏れの問題や、J-PARC実験施設の放射性物質の漏えい、連絡通報の遅れを起こしたことは、誠に遺憾である。

こうした問題が生じた背景には、国の原子力政策が未だあいまいなままの状況にあることも影響しており、国は早急にエネルギー政策における原子力と「もんじゅ」の位置付けを明確にする必要がある。

また、このたび文部科学省においては、下村文部科学大臣を本部長とする原子力機構改革本部を設置し、原子力機構の組織・業務体制を抜本的に見直すこととしているが、安全を最優先に考える組織として原子力機構を早急に立て直すことが強く求められている。

よって、文部科学省においては、「もんじゅ」に対する国民および立地の県民の信頼回復を図るためにも、以下に掲げる事項について、真摯に対応し、実現するよう強く要請する。

平成25年6月10日

文部科学大臣 下村 博文 様

福井県知事 西川 一誠

## 1 エネルギー政策における「もんじゅ」の意義の明確化について

エネルギーの安定確保と放射性廃棄物の低減・低毒化の最先端の科学技術として先進諸外国から期待されている「もんじゅ」については、我が国のエネルギー政策における意義を明確にすること

IAEAなど国際機関との連携の下、日本の科学技術を活かしたモデルプロジェクトとして推進するとともに、このような「もんじゅ」の役割と期待について、積極的に国民の理解を得るよう努めること

## 2 原子力機構の抜本的改革について

「もんじゅ」については、今回の点検不備の問題のみならずこれまで様々な事故やトラブルが発生しており、そのたびに性能試験の工程が変更された事実を踏まえ、新理事長の下で以下の点に留意し早急に組織・人員体制の抜本的な改革を行うこと

- (1) 「もんじゅ」の研究開発と安全確保の期間ごとの目標を明示し、その進捗と成果を絶えず評価する体制を整備すること
- (2) 海外の研究者や民間技術者など外部の人材を積極的に登用して人員・組織を刷新し、人材を現地に集めて研究開発や安全確保に万全を期すこと

## 3 文部科学省の体制強化について

文部科学省が自ら責任を持って「もんじゅ」の研究開発の成果を常に確認し、原子力機構の安全管理をチェックするため、文部科学省および出先機関(敦賀原子力事務所)の指導監督体制について、抜本的に強化すること